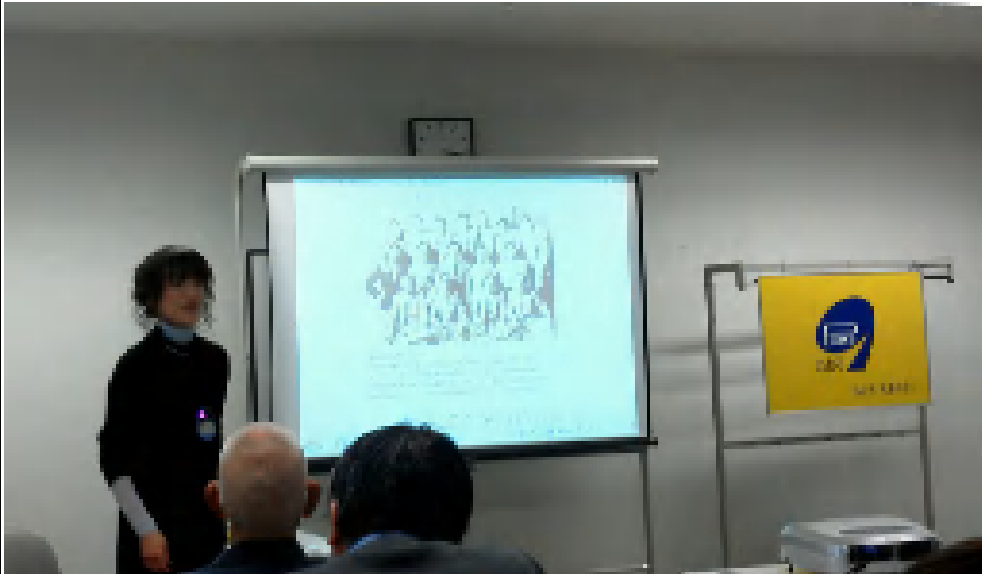


第1752号

2015年5月17日
日本共産党根室市議団
根室市宝林町4-203
TEL 23-6023
FAX 24-1684

憲法守ろう！9条守ろう！

5月3日憲法記念日に、「ねむろ九条の会」は、北海道新聞情報サービス編集センター記者の佐竹直子氏を講師に、『獄中メモは問う～作文教育が罪とされた時代といまの日本～』と題した講演会を開催しました。



講演する佐竹直子氏

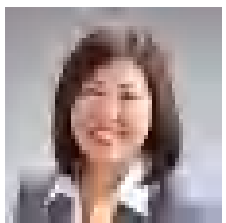
会場となった根室市総合文化会館の講座室には、いっばいとなる約70人の市民が参加。講師の話に熱心に耳を傾けました。筆・再構成を行いました。

北海道新聞社の道新選書として出版されています。佐竹氏は、「北海道綴方事件」で逮捕・抑留された元教員のメモを発見したことをきっかけに取材を開始しました。

綴方事件、正しくは「北海道綴方教育連盟事件」といい、日常生活をありのまま書く綴方（現在で言う作文）教育に取り組んでいた道内の教員らが、「貧困などの課題を与えて児童に資本主義社会の矛盾を自覚させ、階級意識を醸成した」などと逮捕された弾圧事件。逮捕者のなかには、厚床小学校の教員だった方も含まれています。また、会場には、その教員の教え子だった方も参加していました。

佐竹氏は、当時の子どもたちが書いた綴方（作文）の一部を紹介し、「なぜ、日常を素直に、自分の文体で書かせることが罪になったのか」と問い、逮捕の根拠となった治安維持法の違法性と矛盾を指摘しました。

いわぶち友「かけある記」
2015年5月11日
日本共産党福島県委員会常任委員
（参議院比例予定候補）「北海道・東北」
いわぶち友
青年ボランティアと一緒に
五月二日から六日の日程で、民青同盟が主催する「第8次全国青年ボランティア@福島」が開催され、北海道から沖繩までたくさんの青年たちが「自分の目で確かめたい」と参加してくれました。北海道のみなさんは南相馬センターで活動。二日目に行われた交流会に「どうしても！」と参加させてもらい会うことができました。



仮設住宅での聞き取りでは、「俺は復興なんてしていないと思う。国が俺たちのことをどう思っているのか。逆にこっちが聞いてみたい」と言われました。自分たちは見捨てられているのではないかと。事故収束や被災者救援よりも再稼働に突き進む国と東京電力がこんな思いにさせています。

自分たちにできることは何か。みなさんと話し合いました。「戻って周りに伝える」ということはもちろん、一歩踏み込んで「政治を変える」主体になるということまで考えられたボランティアになったのではないかと感じています。

五日には泊原発が停止して三年となりました。国民のたたかいは再稼働を許していません。感受性豊かでしなやかで熱い青年のみなさんの思いに触れて、青年のみなさんと一緒にたたかいを広げていこうとあらためて決意した青年ボランティアになりました。